

## ニュース学童保育

=私たちの活動 4つの柱=  
\*制度化と指導員の身分保障  
\*専門性と仕事の確立  
\*父母と共に学童保育運動の発展  
\*全国の指導員との団結と連帯

# 「コロナ禍」の学童保育所を振り返る II 札幌支部

## 初動

2020年3月からの休校に伴い、札幌市内の民間児童育成会の開設状況はまちまちでした。

緊急事態宣言が発令されたからと言っても、保護者の就労実態は様々です。

「1〜2日くらいなら」と通所を自粛できる世帯もあれば、「開設時間の短縮でも開けてもらって助かった」という世帯もありました。また、他の施設では感染のリスクを考え、1週間閉所していたところもありました。

## 施設

民家やテナントなどの施設ではSDを保持しにくいので、対処に苦慮する声は多かったです。低学年を中心に通所可能にして高学年は最寄りの公園に時間指定して通ってもらい保育した施設、小

学校のグラウンドや体育館を借りられなければ地域の目があるので外での活動が思うようにできなかった施設等、実態がわからないウイルスの感染対策に子どもも指導員も

「検温・手洗い・うがい・消毒・マスク着用」に躍起になっていたのは確かです。

ある指導員は「後悔しないように出勤前後の消毒に力を入れた」と鉛筆1本、トランプの1枚までおこなったといっていました。

## 休校時期

休校に入ったのは3月でしたから、6年生にとっては「卒所の記念」行事がある季節。記念の取組に苦渋の決断をした施設もありました。

4月に新1年生を迎え、保育園でマスク着用をし

ていなかった子どもたちに「検温・手洗い・マスク着用」を促すのが最初の指導。信頼関係も当然で

きていない私たち指導員に子どもを預けなければならぬ保護者の心配はいかほどであったろうと思えます。

3月〜5月末までの休校、そして6月中旬までは分散登校が続いたので、結果3、5か月朝から保育が続きました。

## 繋がり

様々な情報が入り乱れている中、孤軍奮闘しているだろう仲間たちとFAX等で状況・情報をやり取りし、まとめたものをニュースとして保護者にも配布してもらったりなど、直接集えない状況を解消してきました。

また、各種団体から様々な情報を流してくれ、衣・食・住に関わる支援品や

各団体の支援金などを活用できました。

札幌市からは、独自に一人5万円の『慰労金』が支給され、コロナ関係の臨時の助成金（消毒関係品・機器・手当等）のおかげで、当初の赤字予算が大きくならず済んだという状況もありました。

## 指導員

安心・安全な生活を営んでいくための体制の確保は各施設の悩みどころでした。

複数配置は長年の私たちの願いでもありましたから、アルバイトが激減した大学生のOB・OGにアルバイトを依頼し体制を確保できた施設もあれば、長時間勤務をせざるを得ない日が続き、保護者でボランティア協力し合って乗り切った施設もありました

通所自粛が進み残念ながら退所する世帯があったと耳にした時や公園に行っても地域の子どものいない光景に、『コロナと休校で子どもたちの放課後生活が奪われている』と憤ることもありました。

この間、私たちは、保護者と対処対応を相談協議し、運営に関わる大人たちみんな手探りで子どもたちの生活を守ってきました。

保護者・地域の皆さんからの労いの言葉や支援を頂いたことは、どの指導員も「一番勇気づけられた」と言います。月並みですが、子どもたちの生活と保護者の就労を守るために私たち指導員も頑張りたいですし、コロナ禍の現場でより明らかになった矛盾や課題が一つでも多く改善されたいように声を上げていきたいです。

(札幌学童保育支部

宇夫佳代子)